

# 本学における体育実技科目に関する アンケートによる調査研究報告

鈴木 淳平・秋田 浩一・江口 淳一・竹田 幸夫・下谷内勝利  
山口 良博・岩本 哲也・瀧本 誠・出井 章雅・柳 浩二郎

## はじめに

### 1. 保健体育科目の教育目標

本学における保健体育科目の教育目標は次のように定められている。

『人間が「ひと」として生きていく上で、自己の身体について理解を深め、健康の増進や体力向上のための基本的な知識や習慣を学ぶことは、非常に重要です。本学の「保健体育科目」は、様々なスポーツ種目の実践と経験、さらには健康に関する理論の学習を通して、生涯を通して健康の増進や体力の向上を図り、ゆとりある社会生活を実践する能力を獲得することを目標としています。』

上記のように、全学部学科共通の教育目標として履修要項に掲載しており、大学の質保障・大学認証基準（アドミッション・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、ディプロマ・ポリシー）への取り組みとその評価等、大学教育に対する社会的要請に応える形で教育目標を設定している。シラバス上では、本学は保健体育科目の重要性に対する認識を十分に示していることになる。

しかしながら、昨今の状況をみれば、この教育目標の実現は難しい。理想と現実にはギャップがあると言えばそれまでであるが、かなり違和感を覚える。なぜなら、駒沢キャンパス再開発計画に伴う体育館取り壊し等により、駒沢キャンパスでの体育実技（生涯スポーツ実習等）は代替教場「2 研 101」で実施されており（H27 年度～現在）、この簡易的な施設・設備しかない狭小な教場 1 箇所のみでは、運動を実践したい学生の要望には十分に答えられていないからである。本学の保健体育科目カリキュラムに関する施策のうち、特に駒沢キャンパスでの体育実技科目の現状

は停滞し、衰退の方向へ向かっており、今後体育施設を整備する計画もないことは、大学生の「体育」にとっては危機的な状況である。

## 2. 体育実技科目の特徴

本学における体育実技科目は、全学共通科目の保健体育科目として区分され、その中で「必修」か「選択」科目の履修単位区分で分類され、卒業に必要な単位に含まれる科目である。修得単位数を超えた場合には、広域選択科目として認定される。保健体育科目の「必修」か「選択」かの履修単位区分と卒業に必要な最低単位数および広域選択の必要最低単位数は学部学科により設定は異なる。各学部学科の履修単位区分を表1に示す。

表1. 保健体育科目 学部学科の履修単位区分と単位数

開講曜日	学 部	学 科	必修／選択	単位数
月	文	国文 英米文 社会 社会福祉 心理 歴史 地理	必 修 (体育実技)	2 単位
火	経済	経済学科 商学科 現代応用経済学科	H25 年度まで選択 2 単位 H26 年度から選択 0 単位	
水	法	法律学科 政治学科	選 択	2 単位
木	経営	経営学科 市場戦略学科	選 択	2 単位
金	仏教		必 修 (体育実技)	2 単位
	医療健康科	医療健康科	必 修 (体育実技 2 単位+その他)	4 単位
	GMS	GM	選 択	2 単位

体育実技科目は、以下のように授業を展開している。

「健康・スポーツ実習」

玉川キャンパス開講科目・(必修/選択)は学部により異なる・通年2単位  
多種多様な種目、十分なスペース、運動欲求を充足できる環境

「生涯・スポーツ実習」

駒沢キャンパス開講科目・全学部学科・選択・半期1単位  
2研101、狭小

「生涯・スポーツ演習シーズンコース」

全学部学科・選択・集中2単位

夏：ゴルフ、冬：スキー・スノーボード

### 3. スポーツや体育の位置付けとその動向

男女ともに平均寿命が80歳以上の時代となり、少子高齢化が進む日本にとっての重要なポイントは「健康寿命の延伸」である。寿命の延伸と生涯スポーツの関係を学ぶ「健康教育」と、軽度の運動としてスポーツを取り入れる「運動実践」が、今後の日本を健康な社会へと構築するための両輪となるであろう。

2012年にスポーツ基本法が制定され、2020年の東京オリンピック開催を目前にし、2016年にスポーツ庁が設置された。これらはスポーツに関わる全ての根源をなす重要な施策であり、スポーツを通じた開発の具体的な政策策定や、スポーツを行う環境設定の法的な根拠となり、成熟したスポーツを通して社会の様々な場で開発に関与していこうという意図がある<sup>(3)</sup>。国や文部科学省を中心に、国民一人一人の健康意識をより良い方向へと向けるきっかけとなっていると考えられる。

小学校から高等学校までの教科の一つである「体育」において、文部科学省学習指導要による現在の体育の基本方針では、「体を動かすことが、身体能力を身につけるとともに、情緒面や知的な発達を促し、集団的活動や身体表現などを通じてコミュニケーション能力を育成することや、筋道を立てて練習や作戦を考え、改善の方法などを互いに話し合うかつ度などを通じて論理的思考力を育むことにも資することを踏まえ、それぞれの運動が有する特性や魅力に応じて、基礎的な身体能力や知識を身につけ、生涯にわたって運動に親しむことができるように、発達の段階の

まとまりを考慮し、指導内容を整理し体系化を図る。」としている。つまり現在の体育では、「運動による身体能力の獲得」のみならず、「情緒・知性の発達」、「コミュニケーション能力」「論理的思考」などのいわゆる『人間力』の獲得を目標にしている。このように高等学校までの「体育」は「運動・スポーツを学ぶ」ではなく「運動・スポーツで学ぶ」であり、さらに大学体育では「運動・スポーツで学び、健康体力をつくり、人間力をより高める」という『一生涯を通じた学び』であることを提唱すべきである。また、高等学校までの体育教育を上手に引き継ぎ、健康体力づくりを停滞させず、より発展させることが大学体育の役割とも言える。大学生が運動やスポーツ活動を継続する態度を養うにはどのような取り組みが必要かという議論を大学全体で活発に行い、大学が運動実践の機会を積極的に創出するべきである。

## 調査研究の目的および方法

上述のように大学体育の重要性を認識しさらに発展させるためには、本学学生の体育実技科目に関する実態を調査し、学生の要望や欲求を知る必要がある。しかし、本学で実施している授業評価アンケートは、体育実技科目の特性について対応した調査項目ではないため、実態把握には至らない。したがって、より詳しい調査項目を設定し、体育実技に関する専門的かつ継続的な授業調査を実施することで、本学における体育実技科目のあり方を考察し、より良い授業運営、学生への還元が実現できると考えられる。

そこで本研究では、体育実技科目を受講した学生に対し、健康やスポーツ、学習効果、施設等・運動欲求について、アンケートを行い調査した。(表2)

アンケートの趣旨と個人情報保護遵守について説明し、アンケートの趣旨に賛同および署名のうえ回答させた。アンケートの趣旨には本学の駒沢キャンパスにおける体育実技科目に関する現状説明を含めた。また集計したデータは、授業の改善や質向上の資料としてフィードバックすることを説明した。

# 本学における体育実技科目に関するアンケートによる調査研究報告

## 表 2. アンケート用紙

### 体育実技科目に関するアンケート

駒澤大学総合教育研究部 スポーツ・健康科学部門

体育実技科目を受講されたみなさんの理解度や満足度などをアンケート調査いたします。回答は集計したデータという形で活用し、授業の改善や質向上の資料として役立てます。個人情報の保護を遵守し、個人が特定されるようなデータの公表等はいたしません。アンケートへの回答は任意となりますが、ぜひご協力をお願いいたします。アンケートの趣旨に賛同しお答えくださる方はご署名の上ご回答ください。

平成( )年( )月( )日 氏名( )

( )学部 ( )学科 学生番号( ) 性別(男・女) 年齢( )歳  
 (健康・生涯) スポーツ実習( )曜日( )時限(前期:種目( ) (後期:種目( ) )  
 現在の日常生活における運動習慣(保健体育科目の実技科目を除く)  
 体育会サークルに所属(サークル名: )部  
 サークル活動での運動(種目: ) ※複数回答可  
 その他の運動習慣(種目名・運動形態: ) ※複数回答可

以下の質問について、あなたにもっともあてはまる数字1つに○印をつけ、右の□の中に数字を記入してください。

I 健康やスポーツについて	まったく	そう	どちらとも	そう思う	とても	
	そう思わない	思わない	言えない		そう思う	
1 思いきり体を動かす喜びを感じた	1	2	3	4	5	
2 気分転換、息抜きの必要性を感じた	1	2	3	4	5	
3 健康・運動・生涯スポーツの必要性を感じた	1	2	3	4	5	
4 スポーツの楽しさを感じた	1	2	3	4	5	
5 スポーツの戦術やルールを学んだ	1	2	3	4	5	
6 スポーツ・運動が習慣化した	1	2	3	4	5	
7 スポーツへの興味・関心が広がった	1	2	3	4	5	
8 スポーツ技術の習得方法がわかった	1	2	3	4	5	

II 学習効果について	まったく	そう	どちらとも	そう思う	とても	
	そう思わない	思わない	言えない		そう思う	
1 協調性が向上した	1	2	3	4	5	
2 新しい友人ができた	1	2	3	4	5	
3 問題解決能力が向上した	1	2	3	4	5	
4 コミュニケーション能力が向上した	1	2	3	4	5	
5 物事を実践する力が身についた	1	2	3	4	5	
6 健康・体力・技術を向上できた	1	2	3	4	5	
7 健康や体力に関する知識が身についた	1	2	3	4	5	
8 教養としてのスポーツの意義を理解した	1	2	3	4	5	

III 施設等・運動欲求について	まったく	そう	どちらとも	そう思う	とても	
	そう思わない	思わない	言えない		そう思う	
1 施設(体育館・グラウンド・テニスコートなど)は使いやすいかった	1	2	3	4	5	
2 設備・用具は使いやすいかった	1	2	3	4	5	
3 更衣室・ロッカー・トイレ・シャワーは使いやすいかった	1	2	3	4	5	
4 運動欲求は十分に満たされた	1	2	3	4	5	
5 スポーツ施設は大学に必要だと思う	1	2	3	4	5	
6 今後も体育実技科目を受講したいと思う	1	2	3	4	5	
7 来年度以降、駒沢キャンパスで生涯スポーツ実習を受講したいと思う	1	2	3	4	5	

IV 授業またはその他の機会、今後やってみたいと思うスポーツをお書きください。 ※複数回答可

V その他、ご意見ご要望がありましたらお書きください。

ご協力ありがとうございました。

## 1. 調査対象者

平成 27 年度後期授業期間において体育実技科目を履修した本学学生を調査対象とした。アンケートに回答した 2090 人の中から記入ミス等の無効回答を省き集計した。

回答者数 1919 人（有効回答者）

男女比 男性 1150 人、女性 769 人

平均年齢 19.0 歳（± 0.19）

運動習慣 運動習慣なしと回答 1135 人

## 2. 調査方法

平成 27 年度後期授業期間の体育実技科目の各種目授業実施最終日までに、各種目担当教員からの説明のもとアンケートを実施した。回答形式は、各設問に対し該当する数値（5 段階の評価）を記入させた。

## 3. 調査項目

体育実技科目の授業の改善や質向上の参考になると考えられる質問を大きく 3 分野にわけ、健康やスポーツについて 7 項目、学習効果について 7 項目、施設等・運動欲求について 7 項目を設定した。また、今後取り組みたいスポーツや、その他の意見・要望について、自由記述欄を設け回答させた。

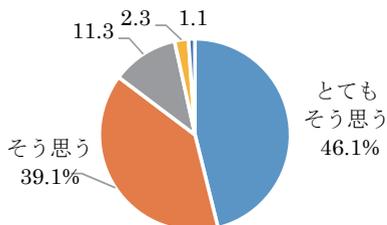
## 結果

各分野の回答の集計結果を図 1～3 に示し、設問ごとの回答の集計結果を以下に示す。

## I. 健康やスポーツについての設問への回答

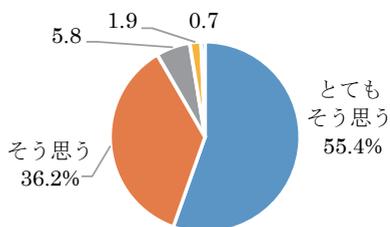
### 1. 思いきり体を動かす喜びを感じた

- 46.1% (885人) …とてもそう思う
- 39.1% (751人) …そう思う
- 11.3% (217人) …どちらとも言えない
- 2.3% (45人) …そう思わない
- 1.1% (21人) …まったくそう思わない



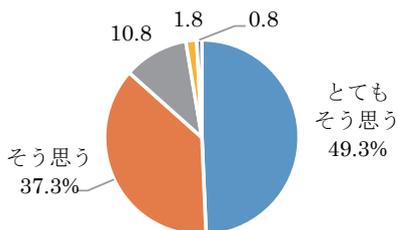
### 2. 気分転換、息抜きの必要性を感じた

- 55.4% (1064人) …とてもそう思う
- 36.2% (694人) …そう思う
- 5.8% (111人) …どちらとも言えない
- 1.9% (37人) …そう思わない
- 0.7% (13人) …まったくそう思わない



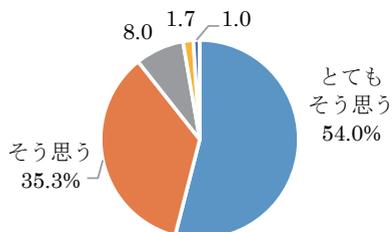
### 3. 健康・運動・生涯スポーツの必要性を感じた

- 49.3% (946人) …とてもそう思う
- 37.3% (715人) …そう思う
- 10.8% (207人) …どちらとも言えない
- 1.8% (35人) …そう思わない
- 0.8% (16人) …まったくそう思わない



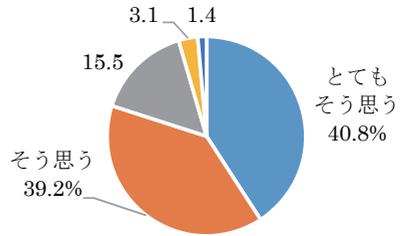
### 4. スポーツの楽しさを感じた

- 54.0% (1036人) …とてもそう思う
- 35.3% (677人) …そう思う
- 8.0% (153人) …どちらとも言えない
- 2.3% (32人) …そう思わない
- 1.1% (20人) …まったくそう思わない



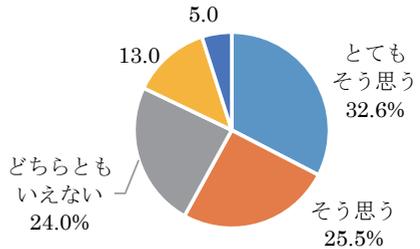
5. スポーツの戦術やルールを学んだ

- 40.8% (783 人) …とてもそう思う
- 39.2% (751 人) …そう思う
- 15.5% (298 人) …どちらとも言えない
- 3.1% (60 人) …そう思わない
- 1.4% (27 人) …まったくそう思わない



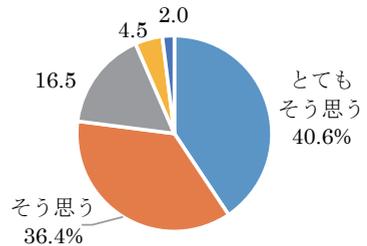
6. スポーツ・運動が習慣化した

- 32.6% (625 人) …とてもそう思う
- 25.5% (489 人) …そう思う
- 24.0% (461 人) …どちらとも言えない
- 13.0% (249 人) …そう思わない
- 5.0% (95 人) …まったくそう思わない



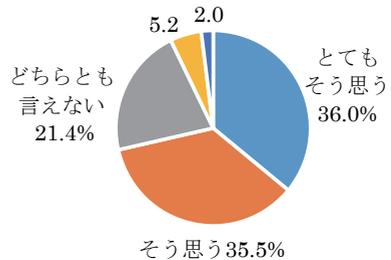
7. スポーツへの興味・関心が広がった

- 40.6% (779 人) …とてもそう思う
- 36.4% (699 人) …そう思う
- 16.5% (316 人) …どちらとも言えない
- 4.5% (87 人) …そう思わない
- 2.0% (38 人) …まったくそう思わない



8. スポーツ技術の習得方法がわかった

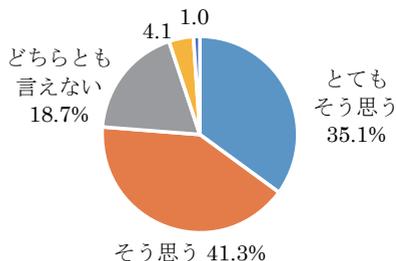
- 36.0% (690 人) …とてもそう思う
- 35.5% (681 人) …そう思う
- 21.4% (410 人) …どちらとも言えない
- 5.2% (100 人) …そう思わない
- 2.0% (38 人) …まったくそう思わない



## II. 学習効果についての設問への回答

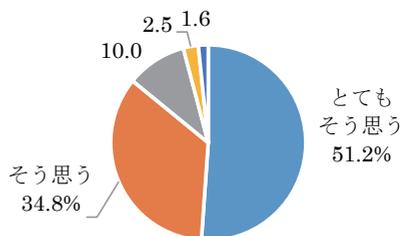
### 1. 協調性が向上した

- 35.1% (672人) …とてもそう思う
- 41.3% (791人) …そう思う
- 18.7% (358人) …どちらとも言えない
- 4.1% (78人) …そう思わない
- 1.0% (20人) …まったくそう思わない



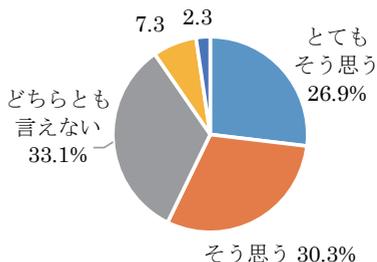
### 2. 新しい友人ができた

- 51.2% (981人) …とてもそう思う
- 34.8% (667人) …そう思う
- 10.0% (192人) …どちらとも言えない
- 2.5% (48人) …そう思わない
- 1.6% (31人) …まったくそう思わない



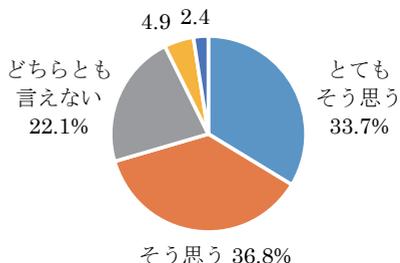
### 3. 問題解決能力が向上した

- 26.9% (516人) …とてもそう思う
- 30.3% (582人) …そう思う
- 33.1% (636人) …どちらとも言えない
- 7.1% (140人) …そう思わない
- 2.3% (45人) …まったくそう思わない



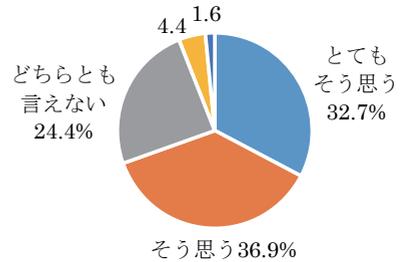
### 4. コミュニケーション能力が向上した

- 33.7% (646人) …とてもそう思う
- 36.8% (707人) …そう思う
- 22.1% (425人) …どちらとも言えない
- 4.9% (94人) …そう思わない
- 2.4% (47人) …まったくそう思わない



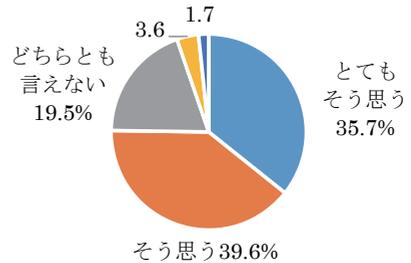
5. 物事を実践する力が身についた

- 32.7% (627人) …とてもそう思う
- 36.9% (708人) …そう思う
- 24.4% (469人) …どちらとも言えない
- 4.4% (85人) …そう思わない
- 1.6% (30人) …まったくそう思わない



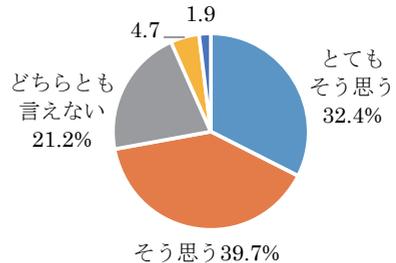
6. 健康・体力・技術を向上できた

- 35.7% (685人) …とてもそう思う
- 39.6% (759人) …そう思う
- 19.5% (374人) …どちらとも言えない
- 3.6% (69人) …そう思わない
- 1.7% (32人) …まったくそう思わない



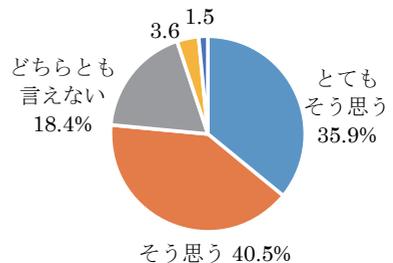
7. 健康や体力に関する知識が身についた

- 32.4% (622人) …とてもそう思う
- 39.7% (761人) …そう思う
- 21.2% (406人) …どちらとも言えない
- 4.7% (91人) …そう思わない
- 1.9% (37人) …まったくそう思わない



8. 教養としてのスポーツの意義を理解した

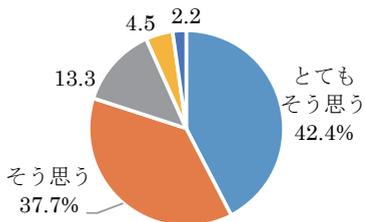
- 35.9% (688人) …とてもそう思う
- 40.5% (778人) …そう思う
- 18.4% (353人) …どちらとも言えない
- 3.6% (69人) …そう思わない
- 1.5% (29人) …まったくそう思わない



### Ⅲ 施設等・運動欲求についての設問への回答

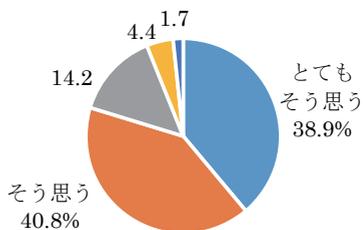
#### 1. 施設（体育館・グラウンド・テニスコートなど）は使いやすかった

- 42.4%（812人）…とてもそう思う
- 37.7%（721人）…そう思う
- 13.3%（255人）…どちらとも言えない
- 4.5%（86人）…そう思わない
- 2.2%（43人）…まったくそう思わない



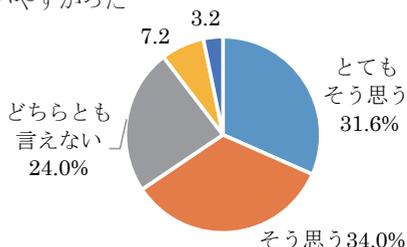
#### 2. 設備・用具は使いやすかった

- 38.9%（745人）…とてもそう思う
- 40.8%（783人）…そう思う
- 14.2%（272人）…どちらとも言えない
- 4.4%（85人）…そう思わない
- 1.7%（32人）…まったくそう思わない



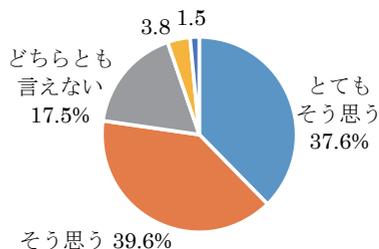
#### 3. 更衣室・ロッカー・トイレ・シャワーは使いやすかった

- 31.6%（606人）…とてもそう思う
- 34.0%（651人）…そう思う
- 24.0%（460人）…どちらとも言えない
- 7.2%（138人）…そう思わない
- 3.2%（62人）…まったくそう思わない



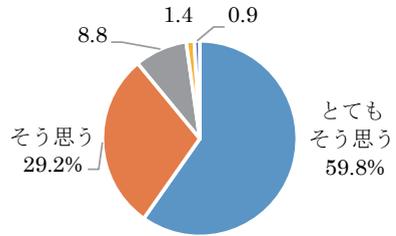
#### 4. 運動欲求は十分に満たされた

- 37.6%（721人）…とてもそう思う
- 39.6%（760人）…そう思う
- 17.5%（335人）…どちらとも言えない
- 3.8%（72人）…そう思わない
- 1.5%（29人）…まったくそう思わない



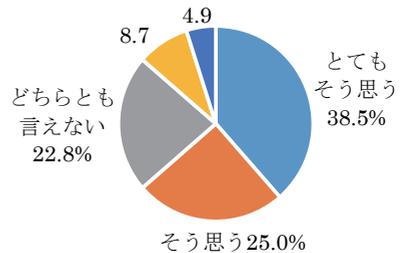
5. スポーツ施設は大学に必要なと思う

- 59.8% (1146人) …とてもそう思う
- 29.2% (560人) …そう思う
- 8.8% (168人) …どちらとも言えない
- 1.4% (26人) …そう思わない
- 0.9% (17人) …まったくそう思わない



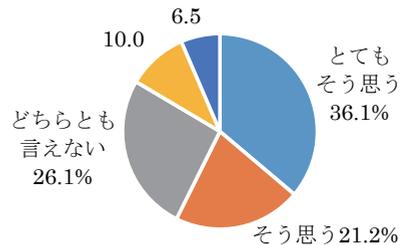
6. 今後も体育実技科目を受講したいと思う

- 38.5% (739人) …とてもそう思う
- 25.0% (480人) …そう思う
- 22.8% (437人) …どちらとも言えない
- 8.7% (167人) …そう思わない
- 4.9% (94人) …まったくそう思わない



7. 来年度以降、駒沢キャンパスで生涯スポーツ実習を受講したいと思う

- 36.1% (692人) …とてもそう思う
- 21.2% (406人) …そう思う
- 26.1% (500人) …どちらとも言えない
- 10.0% (192人) …そう思わない
- 6.5% (124人) …まったくそう思わない



本学における体育実技科目に関するアンケートによる調査研究報告

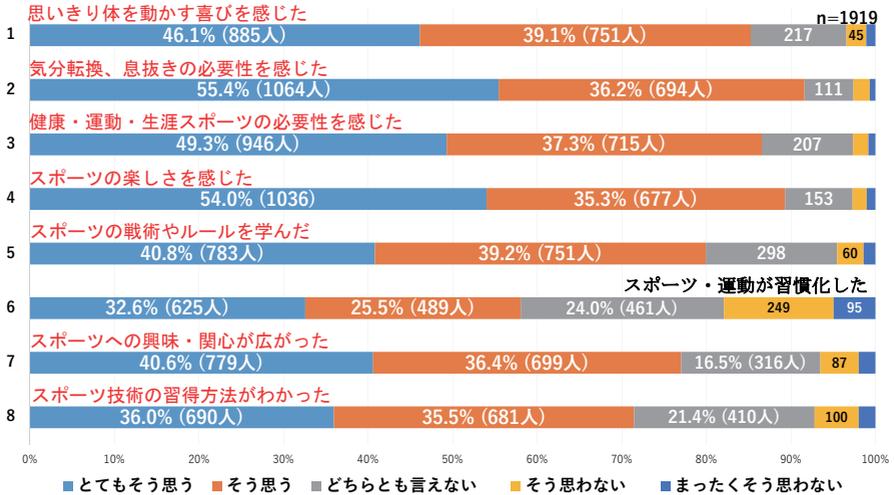


図 1. 健康やスポーツについての設問への回答

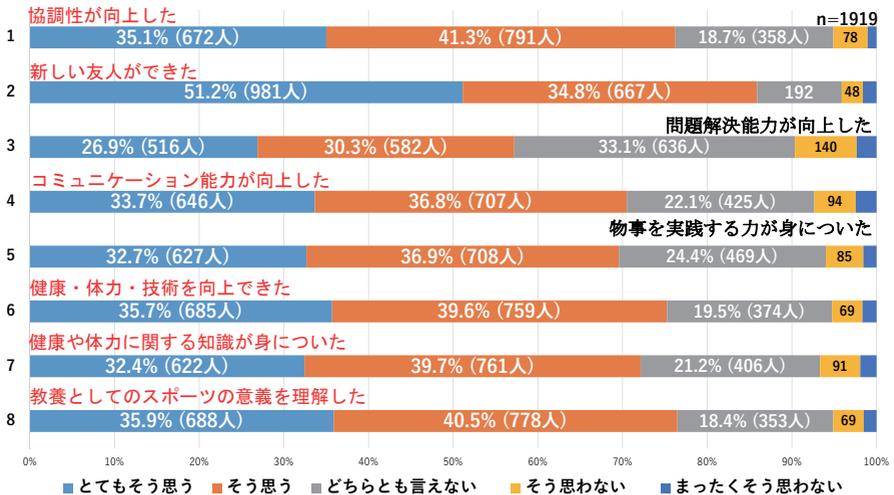


図 2. 学習効果についての設問への回答

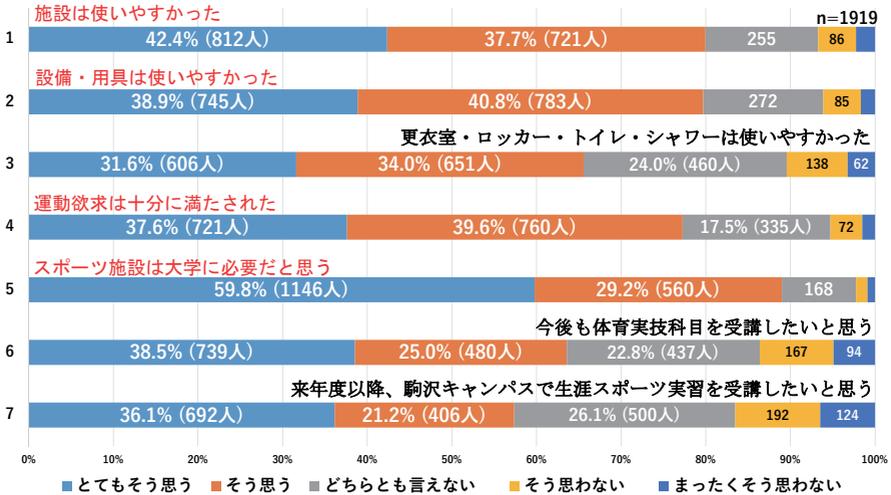


図 3. 施設等・運動欲求についての設問への回答

## 考 察

健康やスポーツについての回答では、「体を動かす喜び」「気分転換、息抜きの必要性」「健康・運動・生涯スポーツの必要性」「楽しさ」などに対して、「とてもそう思う」や「そう思う」という肯定的な回答が80%以上を占めた。授業という枠組みの中で、スポーツの本来の魅力を最大限に享受したと言えよう。

また、約4割以上の学生が「スポーツ・運動が習慣化した」と感じていない。大学体育の従前よりの問題点の一つであることが確認された結果となった。やはり週1回程度のスポーツの機会や運動頻度では少ないということである。さらに、約2～3割の学生がスポーツへの興味・理解に乏しいが、その学生をどのように動機付け、教育できるかは重要な課題であろう。

学生期においては、健康・体力の保持や増進のための知識やスキルを学ぶことも非常に重要であり、これは大学生が持つべき教養の一つである<sup>(1)</sup>。生涯スポーツの入り口として、スポーツや運動を継続する態度を養う最後の機会である。生涯にわたり運動やスポーツ活動を継続することは、質の高い生活の基盤を支える重要な

要因である。学生に自分自身の体力・運動能力の現状をフィードバックし、その認識を高めるとともに、運動実戦の機会を確保していくことによって体力および健康の保持・増進、生活の中にスポーツを取り込むきっかけを与えることが必要になる。

学習効果についての回答では、「新しい友人ができた」に対して「とてもそう思う」や「そう思う」という肯定的な回答が80%以上を占めた。「協調性の向上」「コミュニケーション能力の向上」「健康・体力・技術の向上」「健康や体力に関する知識が身についた」「教養としてのスポーツの意義を理解」に対して「とてもそう思う」や「そう思う」という肯定的な回答が70%以上を占めた。一方で「問題解決能力の向上」「物事を実践する力」に対する肯定的な回答は70%未満に止まった。これらの結果から、体育実技科目の教育効果・学習効果は、初年次教育のプログラムにおいても大いに期待される部分があることを示唆している。学生を取り巻く社会事情は常に大きく変化する中で、学生に心身の健康保持や体力増進を促し、キャンパスライフの充実させる必要がある。単に学術的枠組みのみでのカリキュラム構成では質の高い学生を社会に送り出せない。アクティブ・ラーニングが提唱される中で、体育実技科目は正しくアクティブ・ラーニングそのものであり、「生涯を通じてスポーツに親しむ態度および体力の育成」を自ら進んで実行する素養を作り上げる。

施設等・運動欲求についての回答では、「施設・設備・用具の使いやすさ」「スポーツ施設は大学に必要」に対して「とてもそう思う」や「そう思う」という肯定的な回答が80%以上を占め、「運動欲求は十分に満たされた」に対する肯定的な回答は70%以上を占めた。一方で「更衣室等の利便性」「今後の体育実技科目受講」に対する肯定的な回答は70%未満に止まり、「駒沢キャンパスでの生涯スポーツ実習受講」に対しての肯定的な回答は60%未満に止まった。

アンケート実施前に駒沢キャンパスにおける体育実技科目に関する現状を説明したことの影響も一因であると考えられる。体育施設の大幅な縮小に伴い、学生は不利益を受けていると言わざるを得ない。

## まとめ

井上らは、大学生の体力・運動能力に関する調査から、大学受験による運動機会・運動量の減少に加えて、大学入学後の生活環境等の変化への対応に時間を要することなどが、大学生の運動・スポーツ実施頻度の低下を招く一因として考えられる<sup>(1)</sup>としている。そして、体力のピークにある大学生に対して、生涯を通じたスポーツ・運動実践の基礎となる授業を展開することは非常に意義がある<sup>(2)</sup>と考えられ、体育実技の実践は学生の人間的成長に大いに寄与する<sup>(4)</sup>ということが広く認識されている。「スポーツ」を取り巻く社会的事情も大きく変化しており、大学は今後対応していかねばならない。大学が有する体育施設を拠点としたスポーツ振興も社会的貢献として求められている<sup>(5)</sup>。

本学が展開する保健体育科目、体育実技科目は魅力あるプログラムであるとの評価を得ているようだが、今後もより発展させていくことが重要である。そして、キャンパス整備等、様々な要因を総合的に考慮したビジョンを示し、本学に集う学生が心身の健康とスポーツの楽しさを大いに享受できる環境づくりに注力していきたい。

## 引用・参考文献、資料

- (1) 井上直子・宮崎純一・安井年文・遠藤俊典・副島秀治・北村 哲・高島瑠依・本道慎吾 (2009) Health and Fitness Workbook 2009. 青山学院大学身体技能担当者会編. DTP 出版：東京.
- (2) 遠藤利典・副島秀治・北村 哲・高島瑠依・本道慎吾・安井年文・宮崎純一・井上直子 (2010.1) 相模原キャンパス開設からの追跡調査からみた本学学生の体力・運動能力の現状. 青山スタンダード論集第 5 号. 195-207.
- (3) 佐藤藤幸・野呂 進・専修大学スポーツ研究所 (2014) 大学生のためのスポーツリテラシー&スポーツウェルネステキストブック. 日本文化出版株式会社
- (4) 村松 憲. 基盤研究コアテーマ①FD 実践としての体育授業プログラムの在り方 (その 1) 「自己効力感および社会的スキルの向上に寄与する体育実技プログラムの開発」慶應義塾大学体育研究所. 平成 25 年度基盤研究レポート.

2014. March. No.1.2-3

- (5) 村山光義. 基盤研究コアテーマ③大学体育の教育理念とカリキュラム「大学体育の今日的課題の検証と本塾の課題へのアプローチを探る」慶応義塾大学体育研究所. 平成 25 年度基盤研究レポート. 2014. March. No.1.6-7
- (6) 田中誠一. 大学体育の果たす役割についての再考. -成城大学における体育教育の現状と課題に着目して-. 成城大学